

特42

179

三鳥の深秘

086043-000-8

特42-179

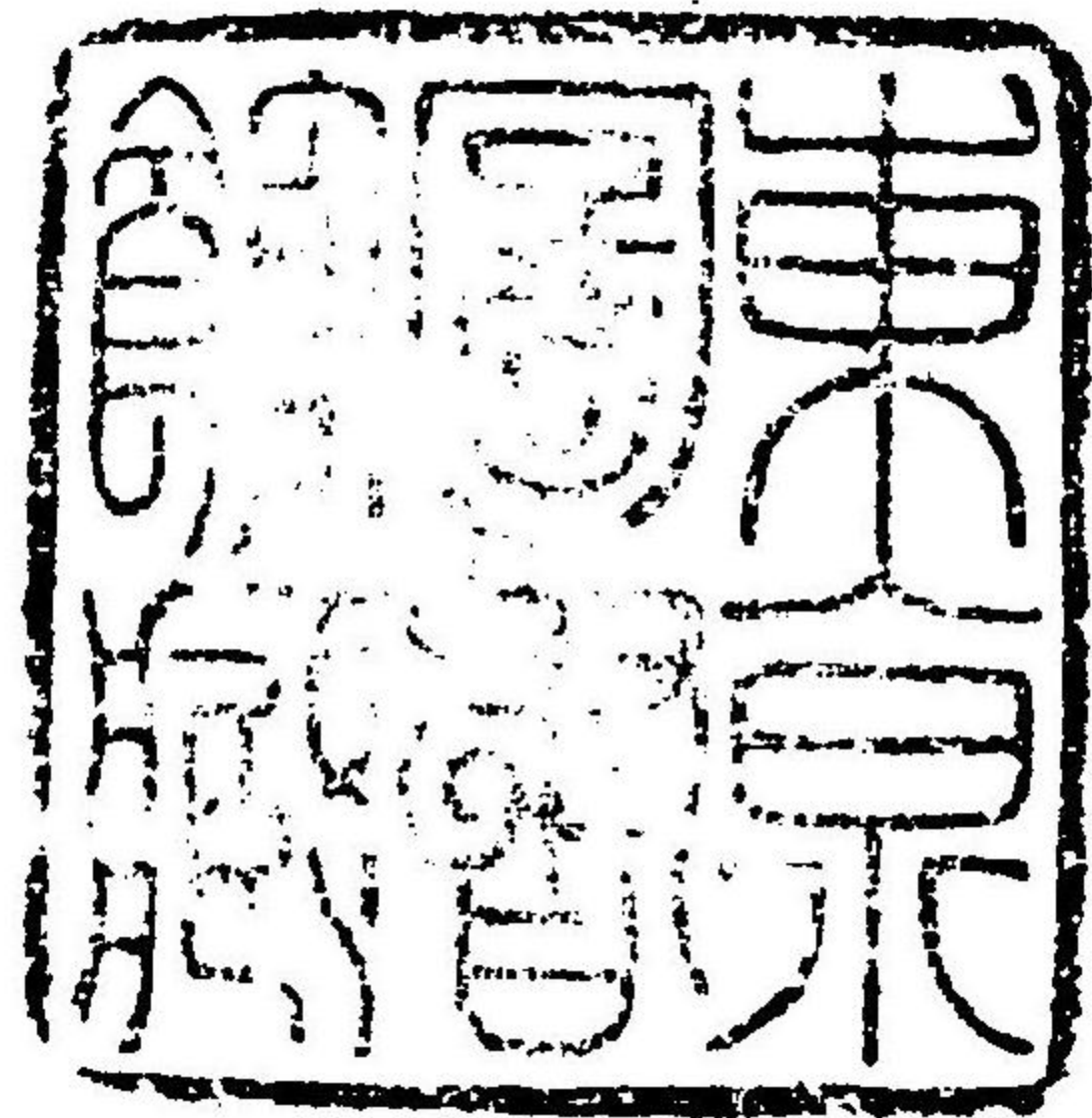
三鳥の深秘

二葉 庵児洲/著

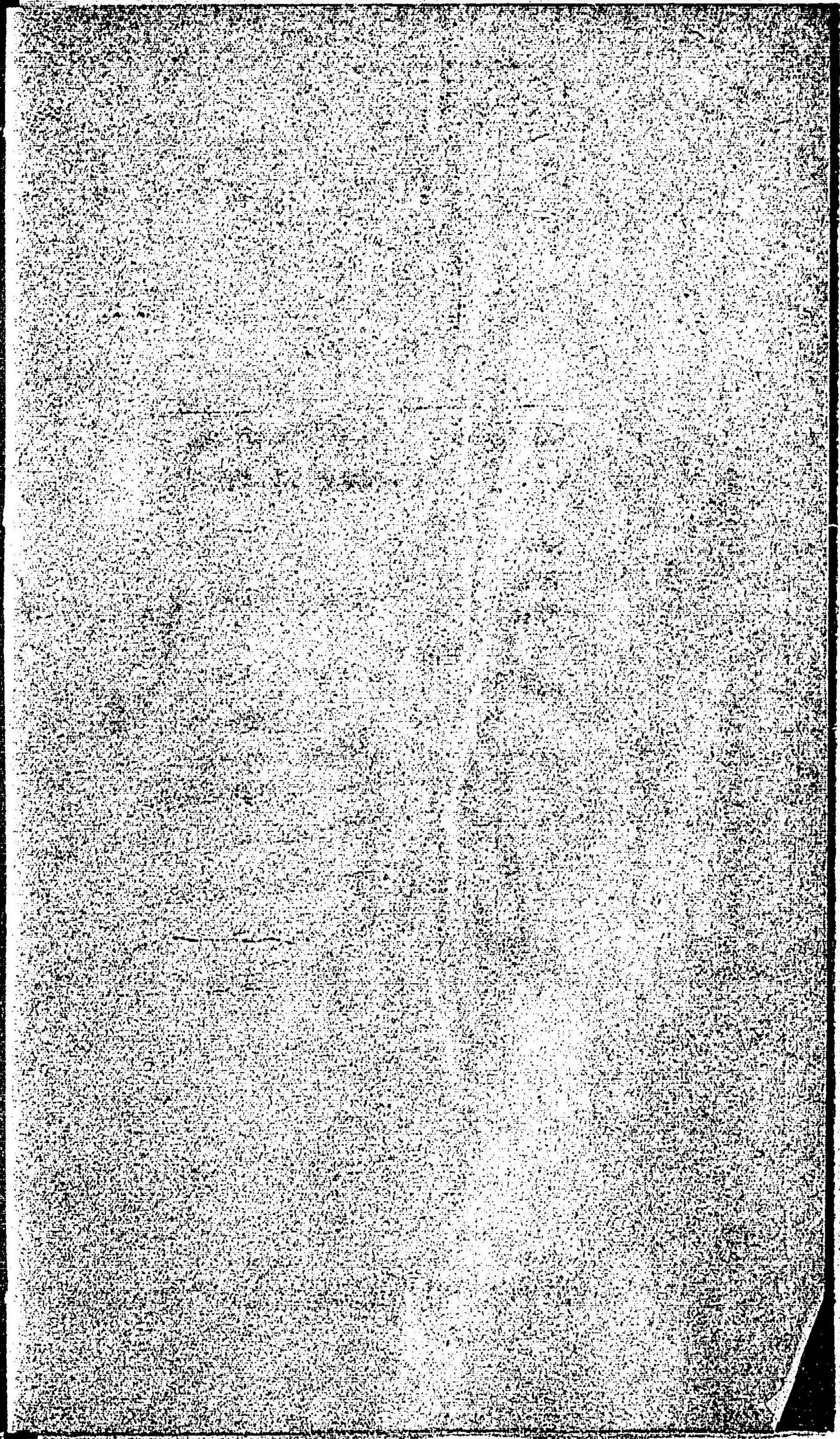
M25

DBD-0685





特42
179



一 卷

一 字

故
一條
祥
家
通
其
長
公
自
筆
傳

二條
冷泉

兩流切爲之傳

三多り侍

玉ふちりきくはるまきまは

あふたまはれまもまきりり

玉ふちりきりり

玉ふちりきりり 玉ふちりきりり 一切りり

玉ふちりきりり 玉ふちりきりり 故又玉ふちり

乃其ノまゝと集人たるは理をれが
ふふり、知事まゝとてなとりとてく
た、おんおんおんおんおんおん
一、おんおんおんおんおんおん
ま

まゝとてははまゝとてはまゝとては
おんおんおんおんおんおんおん

呼ぶまゝとては

唐もよまゝとてはまゝとては
壽もよまゝとてはまゝとては
まゝとてはまゝとてはまゝとては
まゝとてはまゝとてはまゝとては
まゝとてはまゝとてはまゝとては
まゝとてはまゝとてはまゝとては
まゝとてはまゝとてはまゝとては
まゝとてはまゝとてはまゝとては

今日も今日も猿もさし

家へいそぎあり世もさし

今朝吹く風もさし

松をさし

鶯の鳴き声もさし

鳥の鳴き声もさし

山吹の香もさし

那半馬の松

山吹の香もさし

鳥の鳴き声もさし

山吹の香もさし

鳥の鳴き声もさし

詠

心略の考

三子乃海秘

一

二

三多乃深秘

女一侍一故一條祥雲

良公乃海自筆一十

二條冷白女一骨髄と

すもみぬくく由先く

代一くくくくく

お侍之文

古今三つの中一は、
一は、
名は、
乃、
斗、
る

き、
教、
と、
人、
呼、
の、
起

玉ふりて詠み秋の輪州時を音を納
後よりあし今も輪負ふと少なり了り
春のあきなりと時をいふと此方れ
今朝吹く風も詠み人

玉ふり

都より

呼ぶ

都より

輪負

都より

可き心へ事なきは得たはたし
呼ぶなり一もさきも都より
山よりも詠み人
又輪負ふと少なりと少なりと詠み
玉ふりて詠み人
呼ぶなり心へ事なきは得たはたし
詠み人

+

延

如

三

通如

古今の事は伊勢の物決りも余り甚なる事
も亦、禮者も却りて定りたる事
は、禮者も亦、禮者も亦、禮者も亦、
業少なる心、却りて定りたる事
世間も亦、禮者も亦、禮者も亦、
事りたるれも亦、禮者も亦、禮者も亦、

了却の心なりし

呼子多の猿心なるは猿心なるは猿
禿の心なるは猿心なるは猿

呼子多の猿心なるは猿心なるは猿

猿心なるは猿心なるは猿

猿心なるは猿心なるは猿

猿心なるは猿心なるは猿

了却の心なりし

了却の心なりし

了却の心なりし

了却の心なりし

了却の心なりし

了却の心なりし

了却の心なりし

小町之巻

明治廿五年一月十日印刷

白糸白糸白糸出版

定價七十五錢

新潟縣海防部印刷局印刷

小町之巻

樋浦志多

志公縣... 邦福... 子... 村... 九... 部... 本

著作
二... 著作... 所

志公縣... 邦... 子... 村... 九... 部... 本

印刷
本... 田... 由... 三... 郎

